

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年2月13日

【四半期会計期間】 第12期第2四半期(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

【会社名】 株式会社クロス・マーケティンググループ

【英訳名】 Cross Marketing Group Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼CEO 五十嵐 幹

【本店の所在の場所】 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

【電話番号】 03 - 6859 - 2250

【事務連絡者氏名】 取締役CFO 小野塚 浩二

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

【電話番号】 03 - 6859 - 2250

【事務連絡者氏名】 取締役CFO 小野塚 浩二

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第11期 第2四半期 連結累計期間	第12期 第2四半期 連結累計期間	第11期
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年12月31日	自 2023年7月1日 至 2023年12月31日	自 2022年7月1日 至 2023年6月30日
売上高 (千円)	12,998,530	12,513,962	25,094,322
経常利益 (千円)	1,270,541	880,400	1,879,633
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	764,389	576,647	1,007,009
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	763,334	576,017	1,109,194
純資産額 (千円)	6,317,681	6,496,749	6,088,772
総資産額 (千円)	14,305,847	14,561,603	14,308,489
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	38.61	30.09	51.00
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	38.26	29.87	50.57
自己資本比率 (%)	43.5	44.6	42.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	370,834	279,060	1,796,032
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	358,282	205,679	901,601
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	28,388	650,963	27,498
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	5,525,983	5,321,563	6,477,820

回次	第11期 第2四半期 連結会計期間	第12期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日	自 2023年10月1日 至 2023年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	22.08	37.06

(注) 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（デジタルマーケティング事業）

第1四半期連結会計期間において、連結子会社である株式会社ドウ・ハウス（現：株式会社エクスクリエ）は、スキップ株式会社を吸収合併しており、スキップ株式会社は連結の範囲から除外しております。

（データマーケティング事業）

第1四半期連結会計期間において、連結子会社である株式会社ウィズワークは、株式会社Infidexを吸収合併しており、株式会社Infidexは連結の範囲から除外しております。

この結果、2023年12月31日現在では、当社グループは、当社、子会社30社及び関連会社4社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当社グループの財政状態及び経営成績の分析は、以下のとおりであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の分類移行に伴い、経済活動の正常化が進み、緩やかな回復基調で推移しました。一方、不安定な国際情勢による地政学リスクの増大や先進国等における景気下振れ懸念、急激な為替レートの変動、資源価格の高騰など、依然として先行き不透明な状況が継続しました。

当社グループの事業領域であるデジタルマーケティング市場及びマーケティングリサーチ市場は、顧客企業によるDX（デジタルトランスフォーメーション）への旺盛な投資を背景に堅調となっており、今後も中期的な成長が予想されます。一方で、消費者の購買行動は多様化が加速しており、これに対応した消費者ニーズ調査手法の革新やプロモーション手段の進化が求められるなど、競争環境の激化が想定されます。

こうした経営環境の下、当社グループは持続的な成長を実現するため、中期経営計画の指針である「マーケティングDXパートナー」の実践へ向けた様々な取り組みを通じて、ビジネスモデルの進化とサービス対応領域の拡大を推進しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は12,514百万円（前年同四半期比3.7%減）、営業利益は932百万円（同29.9%減）、経常利益は880百万円（同30.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は577百万円（同24.6%減）となりました。

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	増減額 (増減率)
売上高	12,999	12,514	485 (3.7 %)
営業利益	1,330	932	398 (29.9 %)
経常利益	1,271	880	390 (30.7 %)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	764	577	188 (24.6 %)

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(デジタルマーケティング事業)

デジタルマーケティング事業では、国内のグループ各社がデジタル領域に軸足を置き、販促支援メディアの運営、プロモーション・マーケティング支援、システムの受託開発及び保守・運用、人材供給等、DX（デジタルトランスフォーメーション）に関わる総合的なマーケティングソリューションを提供しております。

同事業の外部顧客に対する売上高は5,108百万円（前年同四半期比11.0%増）となりました。これは、1）ITソリューション分野では、システム受託開発及び人材関連が前年同四半期比で小幅ながら減収となったものの、2）メディア・プロモーション分野では受注単価の回復および株式会社トキオ・ゲッツの新規連結効果により前年同四半期比で増収し、同事業全体の成長に寄与したことによるものです。

同事業のセグメント利益（営業利益）は295百万円（同1.5%増）となりました。売上構成比の変化により売上総利益率が低下したものの、販売費及び一般管理費を抑制したことが増益の主因です。

(データマーケティング事業)

データマーケティング事業では、国内外のグループ各社において、マーケティングリサーチにおけるオンライン・オフラインでのデータ収集を中心にサービスを提供しております。

同事業の外部顧客に対する売上高は4,030百万円（前年同四半期比20.2%減）となりました。これは、1）株式会社クロス・マーケティングを中心とする国内事業会社では、不透明な経済情勢の中でもお客様企業のリサーチ需要は底堅く、主力のオンライン調査が前年同四半期比で増収するなど堅調だった一方、2）海外事業を行うKadenceグループにおいて、コロナ禍後に発生していた需要が一巡し、前年同四半期比で大幅な減収となった、等によるものです。

同事業のセグメント利益（営業利益）は1,024百万円（同28.2%減）となりました。その主因は、売上高減少に伴う売上総利益の減少によるものです。

(インサイト事業)

インサイト事業では、国内外のグループ各社において、各種マーケティングデータの複合的な分析、消費者インサイトの発掘、レポート作成などを通じ、お客様企業のマーケティング戦略における意思決定への支援を行っております。

同事業の外部顧客に対する売上高は3,376百万円（前年同四半期比0.8%増）となりました。株式会社クロス・マーケティングを中心とする国内事業会社では、オフライン調査を中心にリサーチ需要は底堅かったものの、国内医療分野、ならびに海外事業を行うKadenceグループが軟調に推移したため、前年同四半期比で小幅な増収にとどまりました。

同事業のセグメント利益（営業利益）は461百万円（同21.6%減）となりました。これは主に、海外事業の減収による売上総利益の減少によるものです。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、資産については、流動資産が11,469百万円（前連結会計年度末比177百万円増）となりました。主な項目としては、現金及び預金5,322百万円、受取手形、売掛金及び契約資産4,582百万円となっております。固定資産は3,092百万円（同76百万円増）となりました。主な項目としては、ソフトウェア680百万円、のれん528百万円、投資有価証券396百万円となっております。その結果、総資産は14,562百万円（同253百万円増）となりました。

(負債)

負債については、流動負債が5,438百万円（前連結会計年度末比291百万円増）となりました。主な項目としては、買掛金1,606百万円、1年内返済予定の長期借入金883百万円、短期借入金406百万円となっております。固定負債は2,626百万円（同446百万円減）となりました。主な項目としては、長期借入金2,286百万円となっております。その結果、負債は8,065百万円（同155百万円減）となりました。

(純資産)

純資産は6,497百万円（前連結会計年度末比408百万円増）となりました。主な項目としては利益剰余金が5,782百万円となっております。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は5,322百万円(前連結会計年度末比1,156百万円減)となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果減少した資金は、279百万円となりました。主な要因は、法人税等の支払額594百万円、売上債権の増加額1,525百万円の減少要因があった一方で、税金等調整前四半期純利益880百万円の計上による増加要因があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果減少した資金は、206百万円となりました。主な要因は、無形固定資産の取得による支出134百万円などの減少要因があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果減少した資金は、651百万円となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出500百万円などの減少要因があったことによります。

(資本の財源)

当第2四半期連結累計期間においては、営業活動の結果減少した資金は279百万円となっておりますが、主な要因は、法人税等の支払いや売上債権の増加によるものであり、税金等調整前四半期純利益は880百万円を計上しておりますので、営業キャッシュ・フローにつきましては問題ないものと考えております。

今後の資金需要については、手元資金で賄うことを基本とし、必要に応じて金融機関からの借入等による資金調達を実施いたします。

(資金の流動性)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は5,322百万円(前連結会計年度末比1,156百万円減)であり、有利子負債は主に金融機関からの借入金であります。なお、流動比率は210.9%であります。グループ全体として、一定の流動性は確保しており、現時点において懸念される点は無いと認識しております。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(7) 研究開発活動

該当事項はありません。

(8) 従業員数

当第2四半期連結累計期間末において、従業員数に著しい増減はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	63,360,000
計	63,360,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,970,464	19,970,464	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	19,970,464	19,970,464		

(注) 提出日現在発行数には、2024年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年12月31日		19,970,464		646,709		681,709

(5) 【大株主の状況】

2023年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
五十嵐 幹	東京都港区	4,712,586	24.4
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1-8-12	3,295,200	17.1
合同会社general investment	東京都新宿区西新宿3-20-2	900,000	4.7
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	771,700	4.0
株式会社CARTA HOLDINGS	東京都渋谷区道玄坂1-21-1	650,000	3.4
株式会社ビデオリサーチ	東京都千代田区三番町6-17	480,000	2.5
五十嵐 史子	東京都港区	390,000	2.0
上田八木短資株式会社	大阪府大阪市中央区高麗橋2-4-2	319,000	1.7
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SPECIAL ACCOUNT NO.1 (常任代理人 株式会社みずほ 銀行決済営業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都港区港南2-15-1)	310,100	1.6
岩崎 泰次	静岡県静岡市駿河区	289,700	1.5
計		12,118,286	62.8

(注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式677,666株があります。

2. 2023年2月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、三井住友D Sアセットマネジメント株式会社及びその共同保有者である株式会社三井住友銀行、S M B C日興証券株式会社が2023年1月31日現在でそれぞれ以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2023年12月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等 の数(株)	株券等 保有割合(%)
三井住友D Sアセットマ ネジメント株式会社	東京都港区虎ノ門一丁目17番1号	937,900	4.70
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	116,478	0.58
S M B C日興証券株式会 社	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号	51,500	0.26

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 677,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,287,300	192,873	
単元未満株式	普通株式 5,564		
発行済株式総数	19,970,464		
総株主の議決権		192,873	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己保有株式66株が含まれております。

【自己株式等】

2023年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社クロス・マーケ ティンググループ	東京都新宿区西新宿三丁 目20番2号	677,600	-	677,600	3.4
計		677,600	-	677,600	3.4

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年10月1日から2023年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年7月1日から2023年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,477,820	5,321,563
受取手形、売掛金及び契約資産	3,137,898	4,581,785
仕掛品	714,047	726,110
その他	999,511	875,866
貸倒引当金	37,149	36,055
流動資産合計	11,292,126	11,469,269
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	206,764	194,829
工具、器具及び備品（純額）	64,406	55,806
その他（純額）	7,092	6,021
有形固定資産合計	278,262	256,656
無形固定資産		
ソフトウェア	631,508	680,421
のれん	622,633	528,038
その他	207,534	146,796
無形固定資産合計	1,461,675	1,355,255
投資その他の資産		
投資有価証券	323,375	396,235
関係会社株式	73,516	76,257
繰延税金資産	324,650	460,821
その他	554,885	547,110
投資その他の資産合計	1,276,426	1,480,423
固定資産合計	3,016,363	3,092,334
資産合計	14,308,489	14,561,603

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	983,469	1,606,357
短期借入金	393,258	405,769
1年内返済予定の長期借入金	945,801	882,668
未払法人税等	546,368	507,603
賞与引当金	514,234	454,339
その他	1,764,349	1,581,698
流動負債合計	5,147,479	5,438,433
固定負債		
長期借入金	2,758,918	2,286,254
役員退職慰労引当金	105,569	105,569
資産除去債務	129,122	129,731
その他	78,629	104,867
固定負債合計	3,072,238	2,626,421
負債合計	8,219,717	8,064,854
純資産の部		
株主資本		
資本金	646,709	646,709
資本剰余金	569,203	540,079
利益剰余金	5,320,692	5,782,272
自己株式	482,763	422,938
株主資本合計	6,053,841	6,546,122
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,281	18,419
為替換算調整勘定	54,636	69,392
その他の包括利益累計額合計	51,355	50,973
新株予約権	1,600	1,600
非支配株主持分	84,686	-
純資産合計	6,088,772	6,496,749
負債純資産合計	14,308,489	14,561,603

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年7月1日 至2023年12月31日)
売上高	12,998,530	12,513,962
売上原価	7,568,980	7,575,405
売上総利益	5,429,550	4,938,558
販売費及び一般管理費	4,099,987	4,006,650
営業利益	1,329,563	931,908
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,104	810
持分法による投資利益	19,703	2,741
投資有価証券売却益	15,378	-
その他	8,547	5,094
営業外収益合計	45,732	8,646
営業外費用		
支払利息	23,903	22,315
為替差損	19,272	28,526
その他	61,579	9,313
営業外費用合計	104,755	60,154
経常利益	1,270,541	880,400
特別損失		
固定資産除却損	6,640	314
特別損失合計	6,640	314
税金等調整前四半期純利益	1,263,901	880,086
法人税等	484,263	303,485
四半期純利益	779,638	576,601
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	15,249	46
親会社株主に帰属する四半期純利益	764,389	576,647

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年7月1日 至2023年12月31日)
四半期純利益	779,638	576,601
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,385	15,138
為替換算調整勘定	19,689	15,723
その他の包括利益合計	16,304	585
四半期包括利益	763,334	576,017
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	746,424	577,030
非支配株主に係る四半期包括利益	16,910	1,013

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,263,901	880,086
減価償却費	121,951	163,987
のれん償却額	64,285	94,595
投資有価証券売却損益(は益)	15,378	-
固定資産除却損	6,640	314
貸倒引当金の増減額(は減少)	14,940	658
賞与引当金の増減額(は減少)	76,815	55,904
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	19,020	-
受取利息及び受取配当金	2,104	810
支払利息	23,903	22,315
為替差損益(は益)	2,346	767
持分法による投資損益(は益)	19,703	2,741
売上債権の増減額(は増加)	688,146	1,524,827
棚卸資産の増減額(は増加)	216,726	38,061
仕入債務の増減額(は減少)	157,933	581,424
その他	49,043	219,404
小計	938,267	338,356
利息及び配当金の受取額	1,946	643
利息の支払額	24,897	22,087
和解金の支払額	10,899	1,476
法人税等の支払額	533,583	594,495
営業活動によるキャッシュ・フロー	370,834	279,060

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,800	-
有形固定資産の取得による支出	18,984	5,837
無形固定資産の取得による支出	205,209	133,726
投資有価証券の取得による支出	101,125	51,973
投資有価証券の売却による収入	31,527	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	63,321	-
貸付けによる支出	-	12,441
貸付金の回収による収入	8,141	7,588
敷金の差入による支出	1,094	5,043
敷金の回収による収入	13,264	834
その他	19,680	5,080
投資活動によるキャッシュ・フロー	358,282	205,679
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	29,107	16,519
長期借入れによる収入	1,000,000	-
長期借入金の返済による支出	403,788	499,697
自己株式の取得による支出	-	52,972
配当金の支払額	104,621	114,813
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	492,309	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	28,388	650,963
現金及び現金同等物に係る換算差額	18,765	20,554
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	22,175	1,156,257
現金及び現金同等物の期首残高	5,503,808	6,477,820
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,525,983	5,321,563

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間において、連結子会社である株式会社ドウ・ハウス（現：株式会社エクスクリエ）は、スキップ株式会社を吸収合併しており、スキップ株式会社は連結の範囲から除外しております。また、連結子会社である株式会社ウィズワークは、株式会社Infidexを吸収合併しており、株式会社Infidexは連結の範囲から除外しております。

(四半期特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行10行と当座貸越契約を締結しております。

当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
当座貸越極度額の総額	3,514,449千円	3,484,645千円
借入実行残高	382,860千円	376,890千円
差引額	3,131,588千円	3,107,755千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
給与賞与	1,470,840千円	1,629,331千円
賞与引当金繰入額	180,026千円	107,418千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
現金及び預金	5,565,601千円	5,321,563千円
預入期間が3か月を超える定期預金	39,619千円	-千円
現金及び現金同等物	5,525,983千円	5,321,563千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年9月29日 定時株主総会	普通株式	104,898	5.3	2022年6月30日	2022年9月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月13日 取締役会	普通株式	118,756	6.0	2022年12月31日	2023年3月6日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

(1) 自己株式の処分

当社は、2022年8月15日開催の取締役会決議に基づき、2022年9月28日付で譲渡制限付株式報酬として自己株式20,300株を処分いたしました。この自己株式の処分により、資本剰余金が11,445千円増加し、自己株式が4,592千円減少しております。

(2) 子会社株式の追加取得

当社は、当第2四半期連結累計期間において、連結子会社である株式会社ドゥ・ハウスの株式を追加取得いたしました。この結果、資本剰余金が196,650千円減少しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年9月28日 定時株主総会	普通株式	115,068	6.0	2023年6月30日	2023年9月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年2月13日 取締役会	普通株式	125,403	6.5	2023年12月31日	2024年3月4日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

(1) 自己株式の取得

当社は、当第2四半期連結累計期間において、2023年5月15日及び同年6月15日開催の取締役会決議に基づき、63,000株の自己株式を取得しました。この結果、自己株式は52,972千円増加しております。

(2) 株式交換による子会社株式の追加取得

当社は、当第2四半期連結累計期間において、連結子会社である株式会社ドゥ・ハウス(現:株式会社エクスクリエ)の株式を株式交換により追加取得し、自己株式180,732株を交付いたしました。この結果、資本剰余金が29,123千円減少し、自己株式が112,797千円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	合計
	デジタルマーケティング事業	データマーケティング事業	インサイト事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,600,244	5,047,877	3,350,410	12,998,530	-	12,998,530
セグメント間の内部売上高又は振替高	217,333	420,657	16,396	654,386	654,386	-
計	4,817,577	5,468,534	3,366,806	13,652,917	654,386	12,998,530
セグメント利益	290,134	1,426,819	587,797	2,304,750	975,186	1,329,563

(注) 1 セグメント利益の調整額 975,186千円は、セグメント間取引消去670千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用等 975,856千円が含まれております。全社費用等は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用等であり、その主なものは管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において、新たに株式を取得したことにより株式会社Infidex及び株式会社MDIUを連結の範囲に含めております。これにより、「デジタルマーケティング事業」ののれんの金額が100,549千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	デジタルマーケティング事業	データマーケティング事業	インサイト事業	合計
一時点で移転される財又はサービス	4,512,231	5,047,877	3,350,410	12,910,518
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	88,013	-	-	88,013
顧客との契約から生じる収益	4,600,244	5,047,877	3,350,410	12,998,530
その他の収益	-	-	-	-
外部顧客への売上高	4,600,244	5,047,877	3,350,410	12,998,530

当第2四半期連結累計期間(自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	合計
	デジタルマーケティング事業	データマーケティング事業	インサイト事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,107,657	4,030,096	3,376,209	12,513,962	-	12,513,962
セグメント間の内部売上高又は振替高	237,723	460,720	33,390	731,833	731,833	-
計	5,345,380	4,490,817	3,409,599	13,245,795	731,833	12,513,962
セグメント利益	294,527	1,024,224	460,649	1,779,400	847,492	931,908

(注) 1 セグメント利益の調整額 847,492千円は、セグメント間取引消去 533千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用等 846,959千円が含まれております。全社費用等は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用等であり、その主なものは管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	デジタルマーケティング事業	データマーケティング事業	インサイト事業	合計
一時点で移転される財又はサービス	4,949,082	4,030,096	3,376,209	12,355,387
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	158,575	-	-	158,575
顧客との契約から生じる収益	5,107,657	4,030,096	3,376,209	12,513,962
その他の収益	-	-	-	-
外部顧客への売上高	5,107,657	4,030,096	3,376,209	12,513,962

(収益認識関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	38.61円	30.09円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	764,389	576,647
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	764,389	576,647
普通株式の期中平均株式数(株)	19,796,029	19,162,865
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	38.26円	29.87円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	181,626	142,928
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第12期（2023年7月1日から2024年6月30日まで）中間配当については、2024年2月13日開催の取締役会において、2023年12月31日の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当の原資	利益剰余金
配当金の総額	125,403千円
1株当たりの金額	6円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2024年3月4日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月13日

株式会社クロス・マーケティンググループ
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所
指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 植村 文雄

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅野 貴弘

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クロス・マーケティンググループの2023年7月1日から2024年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年7月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クロス・マーケティンググループ及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。